

## 第4段階：ガリラヤにおける大宣教

### G. ガリラヤへの第二の旅

#### 1. イエスはガリラヤへの第二巡回を始める

デイリー・ジーザス・ニュース #087

基本テキスト: LK 8.1-3 (並行テキスト: なし)

1 この後、イエスはすべての町や村を巡回して、会堂で教え、神の国の福音を宣べ伝えた。

十二使徒もイエスと共にいた。2 また、悪霊や病気から癒された婦人たちもいた。七つの悪霊を追い出されたマグダラのマリア、3 ヘロデの家の管理人クーザの妻ヨハナ、スザンナ、そのほか多くの婦人たちである。これらの婦人たちは、自分たちの持ち分を出し、イエスを支えていた。

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = <sup>MT</sup>、マーク = <sup>M</sup>、ルカ = <sup>L</sup>、ヨハネ = <sup>J</sup>、使徒行伝 = <sup>A</sup>。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書を識別します。さらに、*イエスの言葉は赤字で斜体で書かれています*。旧約聖書からの引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト	
位置	ガリラヤ
タイムライン	西暦31年5月から10月 ( 16か月目から21か月目 )
イエスの生涯の文脈	第4段階：ガリラヤにおける大宣教
	G. 第2 <sup>回</sup> ガリラヤ巡礼
タイトル	1. イエスは十二使徒と他の人々と共に二度目の旅に出発する

コメント：

イエスは宣教二年目の初夏、おそらく十六の月、5月にガリラヤで二度目の大巡回を始めました。愛がイエスをガリラヤにある約25の町や村を結ぶ道や小道へと駆り立てました。上ガリラヤ ( 湖の北側 ) は山岳地帯で、町はほとんどありませんでした。下ガリラヤ ( 湖の東側と南東側 ) は丘陵地帯で、アクセスしやすい地域でした。町や村間の移動や直接の接触がほとんどなかったイエスの時代に、町から町へと組織的に移動することは非常に珍しいことでした。主は御国の尊い福音を携えて使命を帯びており、それをすべての人に直接伝えることを決してためらいませんでした。

の宣教活動における大きな転換期でした。これは、イエスへの二つの異なる反応期をつなぐ架け橋であったと考えることができます。約9ヶ月前にガリラヤに到着して以来、イエスは説教、癒し、そして教えの賜物によってその地域を席卷していました。第一巡回では、人々はイエスを大々的な評判と称賛をもって歓迎し

## 第4段階：ガリラヤにおける大宣教

、人気は最高潮に達していました。そのため、第二巡回における「前」の巡回は、肯定的で人気のあるものでした。

しかし、パリサイ人たちはイエスの成功を嫉妬していました。イエスがエルサレムの過越祭の安息日に病人を癒し、その後も二日連続で彼らの人為的な伝統を「破る」安息日を過ごしたため、嫉妬は憎しみへと変わり、パリサイ人をはじめとするユダヤ教指導者の間では、イエスは死刑に処されるべきだという内心の合意が生まれました。第二巡回旅行の間、この内心の敵意はたちまちイエスへの公的な反対と嘲笑へと発展しました。指導者たちはイエスを、悪魔の力で奉仕する悪霊に取り憑かれた男、つまりサタニストと呼び始めました。

当時も今も、イエスの正体については様々な意見が飛び交っていましたが、悪霊に取り憑かれていると非難することは、イエスについて言える最も卑劣な行為の一つでした。そのため、第二巡回橋の「後」側では、イエスに対する反対と抵抗が高まっていきました。第二巡回橋の終わりに、イエスは異なる状況でカペナウムに戻りました。

イエスとその教えに対するこのような激しい憎悪が、イエスが第二巡回において公の場での説教にたとえ話を取り入れるきっかけとなった。多くの人々はイエスが宣教活動を通してたとえ話をういていたという印象を持っているが、実際には、指導者たちから断固として拒絶されたため、この巡回からたとえ話をういる必要が生じたのだ。指導者たちはもはやイエスの率直な言葉に耳を傾けようとしなかったため、イエスはメッセージを物語の中に織り込み、間接的に、指導者たちに自分が伝えようとしていることについて深く考えさせる必要があった。

イエスは弟子たちに、たとえ話の意味を個人的に説明しました。弟子たちはイエスから直接メッセージを受け取り、たとえ話よりもそれを好みました。したがって、第二巡回はイエスの公の場での話し方と方法論における重要な転換点となりました。

二巡回旅行中、イエスは宣教の焦点も調整されました。十二使徒と、後に伝道に派遣する他の弟子たちを訓練することに時間を充てることに重点を置きました。イエスは自らの模範を通して、福音を教え、宣べ伝える模範を示しました。ガリラヤの民衆に焦点を当てて約1ヶ月を過ごした後、イエスは弟子たちを訓練し、備えさせるという最も基本的な課題に目を向けました。弟子たちは「民の漁師」としてイエスに従うことができるようにし、死、復活、そして昇天後も「あらゆる国の人々を弟子とする」というイエスの使命を継続できるようにしたのです。

この点に関して、イエスが旅する専任の弟子たちの中に多くの女性を含めていたことに注目すべきです。ルカはそのうちの3人の名前を挙げていますが、「**そのほかにも大勢**」の女性がいました。これらの女性たちは、自らの財産をもってグループ全体の物質的な必要を満たしながら、イエスから訓練を受け、イエスの周りに絶えず集まっていた移動式の「教会」の交わりにも深く参加していました。6ヶ月間毎日、約30人のグループを屋外に導き、食事を与え、寝床を見つけるのは、決して容易なことではありませんでした。女性たちは、自らの財産と労力を捧げることでイエスと他のグループに仕えるという宣教において、かけがえのない存在でした。

神は人を差別しません。三位一体の神はすべての人を平等に愛しておられます。ですからイエスは、あらゆる人々に向けられた、革新的な移動型巡回伝道を通して、このことを示されました。「移動する教会」は、道や小道を歩き、夜は焚き火を囲みながら、祈り、礼拝し、イエスから何時間も個人的な教えと訓練を受

## 第4段階：ガリラヤにおける大宣教

けました。誰かを本当によく知りたいなら、6ヶ月ほど一緒にキャンプを試してみるのも良いでしょう。第2巡回伝道は、十二使徒がイエスを中心として結束力のある指導者集団へと成長し、専任の弟子たちという大きな集団との交わりと交わりを深める時期でした。これは、偉大な教師であるイエスが創始した、まさに天才的な訓練プログラムでした。

応用：

これは実践的です。イエスはガリラヤのあらゆる人々や場所を自ら訪れ、神の国の福音を手渡しました。そして、すべての弟子たちにも同じことをするように教えました。神の愛は、そうすることが当然のことでした。イエスはただ座って人々が来るのを待つのではなく、自ら率先して人々のところへ行きました。すべての人のところへ。これこそが、愛がライフスタイルとしてもたらすものです。

証しと伝道は、選ばれた少数の人だけが行う特別な活動ではありません。それは、天に留まることができず、すべての人に愛を与えるために地上に来なければならなかった愛を、日々表現することなのです。

*あなたは周りの人たちと良い知らせをどのように共有していますか？*

*イエスの第二巡回における伝道と訓練の例は、あなたにとってどのような挑戦となるでしょうか。*

*それに対して何をする必要がありますか？*